



# 東京医療保健大学大学院 感染制御実践看護学講座 (6ヶ月研修)

## 平成24年度 受講生募集案内

### 《現職業務を継続しながらの受講が可能》

#### 入院時の感染防止対策加算(100点)の要件となる 担当看護師の養成基準による講座

平成22年3月に基本診療の施設基準等の一部改正が行われ、5年以上感染管理に従事した経験を有し感染管理に係る適切な研修を修了した専任の看護師等からなる感染防止対策チームを組織して、感染防止に係る日常業務を行うなどの要件を満たしている場合には、感染防止対策加算(100点)が算定できることになりました。

東京医療保健大学大学院医療保健学研究科では、この感染管理に係る専従・専任看護師の厚生労働省養成基準にかなう「感染制御実践看護学講座(6ヶ月研修)」を開講し、修了認定証を授与しております。

なお、皆様からのご希望・ご要望に応え、広く感染制御実践能力の向上を目指す教育カリキュラムとしてご活用いただくことも可能といたしました。

#### 感染制御実践看護学講座(6ヶ月研修)

感染制御実践看護師育成を目的とし、現在勤務している自施設の業務を継続しながら受講できる教育カリキュラム(週末講義、集中講義、指定施設実習、自施設実習、課題演習など)を編成し、本学の大学院医療保健学研究科の感染制御学専門課程の教育スタッフを中心に、日本の感染制御学を開発してきた第一人者(医師、看護師、その他の専門家)を網羅して教育を行います。

#### ■ 施設実習

指定施設実習は、本講座で指定する実習施設において1週間の実習を行います。自施設実習は指定施設実習での経験をもとに、自施設の日常活動を重視した課題学習等が中心の実習となります。自施設実習初期に1回、本学の教育スタッフが各施設に出向いてのラウンドをおこなって関係者と討論し、それ以後は当該施設のICDの指導のもとに現有組織を活用し、感染制御の水準向上を図る教育、多職種専門家とのコラボレーション教育等をe-mailによって行い、効果を上げております。

#### ■ 自施設実習における課題演習

本学の社会人対象大学院(業務を継続しながらの大学院教育)における豊富な経験を生かし、電子媒体等を活用した教育実績に基づいた効果的な指導を行います。

本講座を受講・修了し、修了試験に合格した看護師には、東京医療保健大学大学院学長から感染防止対策加算の施設基準による感染管理に係る専任の看護師としての「感染制御実践看護学講座」の修了認定証を授与します。

# 平成 24 年度感染制御実践看護学講座(6ヶ月研修) 第2期募集について

- ◎募集人員： 20名(第1期、第2期募集合計)
- ◎受講料： 735,000 円（保険料、実習費用等の諸経費を含む）前納一括払い  
（その他講座開講中に発生する教材費等については別途徴収する場合があります）
- ◎出願期間： 平成 24 年 1 月 16 日(月)～2 月 14 日(火)
- ◎試験日： 平成 24 年 2 月 22 日(水)
- ◎試験方法： 小論文、面接、書類審査
- ◎合格発表： 平成 24 年 2 月 23 日(木)
- ◎開講日： 平成 24 年 4 月 28 日(土)
- ◎問合せ先：東京医療保健大学大学院  
「感染制御実践看護学講座」(6ヶ月研修)事務局  
〒141-8648 東京都品川区東五反田 4-1-17  
TEL:03-5421-7655  
メールアドレス kansenkouza@thcu.ac.jp

詳細は本学ホームページをご覧ください <http://thcu.ac.jp/>

## 「感染制御実践看護学講座(6ヶ月研修)を受講して」

第 1 回感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）の学びについて受講生の声を紹介します。

### 小林 マキ子【特定医療法人三栄会 ツカザキ病院勤務(兵庫県姫路市)】



私が、東京医療保健大学大学院「感染制御看護学講座（6ヶ月研修）」を受講するきっかけとなったのは、感染対策担当者を命じられたものの、医療関係団体等が主催する感染管理に係る研修を受講するためには、現職を6ヶ月間休業して研修を受けなければならないことに悩んでいたところ、働きながら受けられる研修があると聞いたことです。どうにかしてこの研修に参加したいと思い申し込みました。合格通知が送られてきた時、嬉しさの反面、毎週兵庫から東京に通うことに対し不安になりました。しかし、実際に始めると新幹線に乗っている間の3時間はどこよりも勉強に集中できる時間だったので苦ではありませんでした。

感染制御実践看護学講座（6ヶ月研修）に参加して、本当に良かったと思うことは、有名な先生方の講義が受けられいろんな情報が頂けたこと、各地から集まった研修生同士での情報交換ができたことです。普段は仕事をして、週末には東京へ行く生活は決して楽ではありませんでしたが、講師の先生方や研修生の皆に会えると思うと苦には感じませんでした。

また、自施設実習では、小林寛伊先生に直接指導して頂き病院全体が感染対策の重要性を認識できたと思います。自施設で実習する中で、分からない事があれば小林寛伊先生や大久保憲先生、その他の講師の先生方に直接メールで質問し、指導して頂くこともありました。講座が終了し、専従の感染制御担当者として働くにあたり不安もありますが、今まで学んだ事をもとに頑張っ

## 篠崎 知津【財団法人永頼会 松山市民病院勤務(愛媛県松山市)】



私が、東京医療保健大学大学院「感染制御看護学講座(6ヶ月研修)」を受講する以前、当院に感染制御学を専門に学び修了している看護師がいませんでした。各自が自己学習による、感染対策・感染症報告・ICT(Infection Control Team)ラウンドなどを手探りで実施している状況でした。年々活発に活動を行いつつありましたが、現場では専門性をもった看護師が求められていました。

そんな時に出会ったのが、現職業務を継続しながらの受講が可能な東京医療保健大学大学院の感染制御実践看護学講座(6ヶ月研修)でした。

始めは、愛媛から東京へ毎月数回に及ぶ受講は不安もありました。しかし、勤務体制を調整し、学習環境を整えて頂くなど、病院の配慮、協力を得て続けることができました。

本講座では多くの有名な先生方が熱心に講座を開いて下さいました。ICN(Infection Control Nurse)が活躍している病院での実習は、感染対策の実際を学ぶ事ができとても充実した実習でした。

また自施設実習では学び得た内容について、自施設での現状や問題について検討し、疑問点は、すぐに先生方へ相談でき、現場で活かすことができましたと思います。そして、遠い愛媛の土地まで小林寛伊先生にも訪問して頂き、実際に当院での問題点について指導頂くこともできました。病院全体での感染対策を変える大きなきっかけとなったと思います。

何より全国からいろいろな立場の研修生が集まり協力しながら授業を受けることで、全国に仲間ができたことは私の大きな財産となりました。今後も大切な存在になると思います。

感染制御実践看護学講座(6ヶ月研修)の教育を終え、まだまだ始まったばかりですが、当院での感染対策の見直しと充実を行い、病院の質の向上のために努力していこうと考えています。

## 森山由紀【医療法人五星会 菊名記念病院勤務(神奈川県横浜市)】



「感染制御実践看護学講座(6ヶ月研修)」という名称の通り、感染制御活動を実践するための知識や方法を学ぶ事ができる講座です。感染制御とは何か、現在に至るまでの感染制御の歴史という基本から学習が始まり、徐々に各論に進んでいきます。感染制御の一線で活躍されている講師の方々から講義を受ける事ができる、非常に恵まれた環境でもあります。

講座の中には小論文の課題があります。小論文と聞くと気が重くなるのですが、講義内容と、実際の業務とを照らし合わせて考える事ができる課題です。考える事・具体策を導く道筋を自分の中に作る事ができる良い課題と考え、取り組んでいます。

また講義を聞くだけでなく他施設に実習にも行きます。感染に携わる実務をしながらですので、「自施設での課題を解決するためにはどうすればよいか」を考えながら、臨むことができます。指導者はその施設で感染制御活動を実際に行っている方ですので、実習施設での実際の取り組みや、現在に至るまでの工夫なども知ることができます。さらに学びを共有するための報告会もあり、プレゼンの仕方なども学びます。その他、動画を見ての学習やパームスタンプを用いた細菌の実験なども行いました。

このような学習によって得るものは多く、貴重な体験で、自施設で指導・教育するために生かせるものがたくさんあります。

最後に、受講して最も良かったと感じていることは、同じ問題に取り組む仲間ができた事です。毎週各地から集まり、課題・悩みなどを話していくうちに、この場所がとても大切な場所となりました。感染制御活動は様々な方の協力・理解を得てなされます。感染制御という大きな目標に向かうには、一人では難しい事も多く、横のつながりが大切だということも学びました。単に知識を得る場所ではなく、人と人の関係も学ぶ出来る事ができる本当に学びの多い講座です。

## 早乙女由美子【財団法人東京都保健医療公社 多摩北部医療センター(東京都東村山市)】



平成 22 年 3 月に基本診療の施設基準等の一部改正が行われ、入院時の感染防止対策加算(100 点)が算定できることとなり、算定要件としての看護師の条件の一つは、感染管理に係る適切な6ヶ月以上の研修を修了していることであった。これが認定看護師ではない私が、東京医療保健大学大学院「感染制御看護学講座(6ヶ月研修)」を受講することになった背景である。

講座開始早々、感染制御の世界では著名な先生が次々と登場し、目の前で豊富な知識と最新情報、世界の感染制御についての講義をして頂いた。先生は受講生の質問に丁寧に答え、「いつでも質問してください」と、e-mail アドレスを教えて下さり、先生方が身近な存在であることを体感した。

また、印象に残る授業の一つにコンサルテーションに関する講義があった。講義とグループワークを通して感染制御におけるコンサルテーションとはどういうことなのか、コンサルティ、コンサルタントとして私達はどのように対応するべきなのか実体験を共有し、今までの対応を反省しながら学ぶことができた。

さらに講座の目玉として、小林寛伊先生、大久保憲先生のどちらかが行う自施設ラウンド指導があった。自施設をラウンドし、問題点などを先生方からフィードバックするという実習である。私の施設は小林寛伊先生が指導したが、医師・看護師からコメディカル・事務職まで小林寛伊先生が来るということに興奮し、まるで大名行列のように病院を移動した。現在、先生のフィードバックに基づき環境改善に取り組んでいるが、理想的な環境にする為に各部署と協力できるのは小林寛伊先生のアドバイスが非常に効果があると実感した。

働きながら学ぶ本講座の講義は、2 回の集中講義と毎週土曜日の講義で構成されている。「働きながら」というのは想像以上に努力を必要とするのも事実である。しかし、素晴らしい講師陣、指導者である認定看護師の皆さんのきめ細やかな指導や、実体験に基づくアドバイスはこの講座でしか経験できない素晴らしいものである。また、今回一緒に学んだ全国の仲間との交流は本講座で得られたかけがえの無い財産だと思っている。

感染制御を目指す看護師にはこの講座を経験し、一緒に日本の感染制御のレベルアップを目指していければと願うところである。

東京医療保健大学大学院「感染制御実践看護学講座(6ヶ月研修)」事務局

TEL 03-5421-7656 (内線 161) E-mail kansenkouza@thcu.ac.jp URL <http://www.thcu.ac.jp>

〒141-8648 東京都品川区東五反田 4-1-17 五反田駅から徒歩 8 分(JR 山手線、東急池上線、都営浅草線)